



EARLY MOUNTAIN WORKS 株式会社

代表取締役

金子 友弥

自身の工房で手仕事にこだわった革製品を多くの顧客に提供している金子社長。昨今、デジタル技術の波が様々なものづくりの現場に押し寄せているが、「私たちが手掛けるのは、今後も絶対に自動化できない仕事なんです」と語る。たとえ 3D の図面が手元に来ても、必ずアナログな職人技が要求されるのだ。匠の技こそが、大いなる誇り——。

社長はこれからも、ものづくりの灯を未来につないでいく。

**「デジタル化が進んでも、アナログな職人技は必要。
ものづくりの灯を未来につないでいきたい」**



代表取締役

金子 友弥

special × interview

フリーアナウンサー

辻 よしなり

職人としての矜持を胸に ものづくりの灯を次代につないでいく



オリジナル皮革製品の企画・製造・販売を手掛ける『EARLY MOUNTAIN WORKS』。全国の百貨店などでポップアップショップを展開し、衣類から小物までこだわりの詰まった同社の製品は人気を集めている。本日は、フリーアナウンサーの辻よしなり氏が同社の金子社長のもとを訪問。波乱万丈を経てものづくりに情熱を傾ける社長の軌跡に迫った。

——『EARLY MOUNTAIN WORKS』さんではオリジナル皮革製品の企画・製造・販売を手掛けておられるとか。まずは金子社長が事業を手掛けられるまでの経緯からお聞かせ願えますか。

母が自宅で和洋裁の講師をしていて、仕立ての様子などを見ていたこともあり、常に私の周りには「ものづくり」が溢れていたように思いますね。それから中学生の時、ボーイスカウトの活動をきっかけにレザークラフトに興味を持ちまして。一つひとつ違った表情を見せる革の魅力にとりつかれたんです。私が作った革製品は周りの友人たちにも好評で、「作ってほしい」といった声を多くもらうようになりました。そして作った製品を見て喜んでくれる姿を見ることが、何より嬉しかったですね。

——少年時代の経験が言わば社長の原点

というわけだ。そのままレザークラフトを生業にされようかと？

いえいえ。当時はそこまで考えることはありませんでした。というのも、私は昔から「その時やりたいことをとことん追求したい」という想いが強かったんです。飲食業を手掛けてみたいと思い立ち、有名コーヒー店で修業したこともありますし、勇壮な和太鼓奏者に憧れて勉強を重ねて和太鼓演奏に携わったこともあります。そうしてご縁に恵まれて、イベント会社でキャリアを積むようになったんです。

——好奇心が旺盛だったのですね。では、革の世界からは離れられていたのですか。

「革」への情熱を失うことはありませんでした。世界各地で和太鼓演奏に飛び回っていた時は、自ら革で衣装を制作していました。ヨーロッパでは革製品の工房を紹介していただく機会もあり、大いに刺激を受けましたね。そんな中、大きな転機となったのが26歳の時。身体感覚がなくなり動けなくなってしまう病を患い、寝たきりの生活になってしまったんです。

——そうでしたか……。闘病生活はさぞつらかったことでしょう。

他の人のサポートがないと、自分では何もすることができない。正直、「もう終わった」と思ったこともありましたが、このままでは終われない——絶対復活して、「史上最強のハンディキャッパー」になるという強い気持ちでリハビリに励む日々を送りました。すると、これまで気づかなかった人の痛みを理解することができるようになるなど、



次第に見える景色が変わっていったんです。病気を通して私は生まれ変わったと言っても過言ではありません。——それから現在のお仕事にはどのようなつながったのですか。

実は入院中に、お見舞いのお返しとしてレザークラフトで化粧ポーチや財布などをプレゼントしていたんです。それが好評で、そろそろ本腰を入れてレザークラフトに取り組もうと決意。妻の後押しもあり、勤務先であるイベント会社を退職して東京・自由が丘に店舗を構えたんです。

——随分思い切られましたね。行動力がおありだ。順調に進みましたか。

ほぼ独学でしたから当時はお客様のニーズに応えられるだけのスキルもなく、苦労しましたね。けれどもある時、たまたま私の仕事ぶりを見られたアメカジブランドのメーカーの方から「うちの商品を作らないか」と声をかけていただきました。さらにその商品がコレクションブランドの方の目に留まり、有名ファッションショーでモデルさんが着用することに。そうして認知度が向上し、事業は軌道に乗りました。

——社長の技術力の高さが認められたわけだ。その後は堅調に歩みを進めてこら

れたのでしょうか。

神戸にも店舗展開し、大きな展示会にも参加するなど事業拡大に邁進しました。けれども2004年、またしても大きな転機が訪れたんです。台風による大雨で、マンションの一室にあった自由が丘の店舗が水没してしまっていました。今度こそもう駄目かと思いましたが、当時は子どもも生まれたばかりでしたし、ここであきらめるわけにはいかない。何とか仮の場所で営業を続けながら、再起をかけてたどり着いたのがこの場所でした。現在、こちらの工房を拠点に革製品の製作を手掛けており、全国の百貨店などでポップアップショップを開催し、販売させていただいています。

——現在はお弟子さんも抱えておられるそうですね。

はい。すでに独立した者もいます。弟子を入れようと思ったのは、技術を残したいという想いがあったのはもちろん、「ものづくりの職人でも飯は食べていける」ということを示したかったんです。自分たちの技術が人を救えることだってある。これからも、真摯にものづくりと向き合い、その灯を絶やさないようにすることが私の役割だと考えています。

(2020年7月取材)

顧客との出会いを楽しむ

▼これまで全国の有名百貨店などでポップアップショップを展開してきた『EARLY MOUNTAIN WORKS』。百貨店は出店のハードルが高く、結果を求められるシビアな環境だ。さらに百貨店の精鋭スタッフの目をごまかすことはできない。何より確かな品質が求められる。「自分自身が戦うステージとして、これ以上の場所はないと思いました」と社長。また、路面店ではなく期間限定のポップアップショップというかたちで出店するほうが、より多くのお客様と出会う楽しみがあることも社長にとっては大きな魅力になっているようだ。

▼新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため緊急事態宣言が発令され、全国の百貨店の多くは休業を余儀なくされた。社長のもとにも心配する声が寄せられた。その間、社長はこれまで自社製品を購入してくれた顧客のためにマスクを製作し、送付したという。緊急事態宣言の解除を受け百貨店が営業再開に動く中、同社のポップアップショップも再開していく。笑顔で顧客と会える日が来るのを社長は心待ちにしている。



「『この仕事は安定していないけれど、次にどんな出会いがあるかわくわくするんです』という金子社長の言葉が印象的でした。私が局アナからフリーに転身した時の気持ちと全く同じだったんです。私も社長と同じように生涯現役を貫いていこうと思わせていただいた有意義な対談でした。同じ“職人”として、これからも共に頑張っていきましょう！」

辻 よしなり・談

EARLY MOUNTAIN WORKS 株式会社

神奈川県厚木市飯山 4872-7

URL : <http://earlymountain.works>